

中学生連載企画

私たちのふるさと松山学 No.14



野本 和希さん (2年)

宮内伊予柑って？

宮内伊予柑は、昭和30年に平田町でミカン園を経営していた宮内義正さんが、1本の「変わり枝」を発見したことから生産が始まりました。

普通は切り捨てしてしまうような「変わり枝」を、宮内さんは大切に育て、



宮内伊予柑について学ぶ鴨川中学校生徒ら

小さいころから変わったものにも興味があり、勉強は数学や理科が得意。疑問に思ったことや興味をもったことは納得いくまで調べるのが好きだったそうです。また戦争があったころには、細心の注意と、ものをしっかり見る観察眼が必要な仕事に携わっていました。そのするどい観察力や探求心、変わったものへの愛情があったからこそ、「変わり枝」を切り捨てることなく、宮内伊予柑の生産に成功したのだと思います。



三嶋 心夏さん (2年)

宮内義正さんとは

努力して栽培した結果、非常に優秀な形質を持つことがわかりました。その後さらに、果樹試験場と温泉青果農業協同組合の調査によっても、その優秀性が確認され、昭和41年に新品種「宮内伊予柑」として農林省に登録され、全国的に注目される柑橘になりました。



久本 遥香さん (2年)

宮内伊予柑の特長

普通の伊予柑よりも早く成熟するため20日ほど前に出荷されます。葉の大きさは普通の伊予柑と変わりませんが、やや立ち気味。果実は大きく、扁平気味で赤みがかっています。果肉は柔らかく果汁も多いです。さらに果皮が薄く、種も少ないので食べやすいです。その味は天皇陛下への献上品としての栄誉をいだけるほど認め

宮内伊予柑母樹



宮内義正さんによって発見された「変わり枝」から育成・栽培した母樹。昭和52年3月25日に「松山市指定天然記念物」に指定されました。



60年以上の歴史をもつ宮内伊予柑



中嶋 大雄さん (2年)

全国一の生産量

「愛媛の伊予柑、いい予感」というキャッチフレーズでも有名になった伊予柑は、日本で生産される柑橘類では温州みかんに次ぐ生産量の果物で、その生産量は愛媛県が全国の約90%を占めており、県内の約半数は松山市で生産しています。なかでも人気が高く盛んに栽培されているのが「宮内伊予柑」で、全国でも親しまれています。



鴨川中学校

全国一の生産量 「宮内伊予柑」の生みの親 宮内義正

私たちの学校では、総合的な学習の時間を使って「鴨川を知る」というテーマでさまざまな学習を行っています。たくさんの魅力がある鴨川地区の中で、私たちは全国一の生産量を誇る「宮内伊予柑」について調べました。

小さなことにも気付く観察力を育てたい

宮内伊予柑のことを調べていくうちに、宮内さんはすごい人だととても感心しました。私たちも宮内さんのように、小さなことにも気付ける観察力を育てていきたいと思えます。



宮内伊予柑色のマントをまとった鴨川中学校のイメージキャラクター「かもも」

鴨川中学校のイメージキャラクター「かもも」は、全校生徒からアイデアを募集し、



ゆるキャラ®も宮内伊予柑をPR

当時の3年生女子生徒の発案で誕生しました。鴨川中学校の「鴨」がモチーフで、校章や校章に使用されている「オリーブ」の冠、そして地域特産の「宮内伊予柑」の色をしたマントをまとっています。地域の魅力を生徒自身で積極的に発信しようというゆるキャラ®グランプリにも3年連続で出場。平成28年に松山で開催された「ゆるキャラ®グランプリin愛媛のえひめ」では、生徒と一緒に会場に直接参加し宮内伊予柑をはじめ、地元の魅力を来場者にPRしました。

先人と文化の読み物教材 「語り継ぎたいふるさと松山百話 I・II・III」



松山の先人や文化に関する心に響くエピソードをまとめた教材集です。一話が10〜14ページ程度で、気軽に松山ゆかりの先人の足跡や文化に親しむことができ、市立図書館で見ることができま